

五 福の神 — 七福神

それぞれ個性豊かな姿の七福神 — 恵比須、大黒天、弁才天、毘沙門天、寿老人、福祿寿、布袋 — は、もとは神話や仏教などの神仏、実在の僧でしたが、庶民の間でさまざまに親しまれていたものが集って、中世末以降、七福神として広く信仰されました。その中で、寿老人は、中国において福德、財運、長寿の神とされ、南極老人星の化身とされました。黒色の頭巾に道服、杖をつく老人の姿に描かれ、杖に結びつけられた巻物には人間の寿命が記されていると言われています。恵比須、大黒天は商売繁盛、財運の神様として大変人気が高く、また、布袋はその福々しい容貌から作品の題材にも多く取りあげられました。



25

寿老人松鶴竹亀図

野口幽谷 三幅対

明治二十二年（一八九九）

絹本着色

本紙各一七三・五×五六・九

本図は、中央に白鹿を連れた寿老人、右に松に番の鶴、左に竹にやはり番の亀を描いた三幅対である。寿老人は、南極星の化身で長寿を授けられる。傍らの白鹿も齢千五百歳を超える霊獣である。この他にも鶴、亀、松、竹、どれも長寿を意味する吉祥的題材



である。江戸時代以降には、このように寿老人を中央に配し、左右に長寿を示す鶴や亀（百鶴、百亀の場合も多い）を並べる三幅対が数多く描かれた。

野口幽谷（一八二七〜九八）は、椿椿山に学び花鳥画を得意とした。椿山は洋画描法を取り入れて写実的な肖像画を描いた渡辺華山の門人である。本図の陰影を施された寿老人の面貌表現は、この華山から椿山へ、そして幽谷へと受け継がれたものといえよう。伝来記録や『美術園』第十四号（明治二十二年十二月発行）によると、本図は「智仁勇図」（当館所蔵）とともに、明治二十二年の立太子の折に皇后陛下より贈られた品である。



幽谷野口繪謹寫



No. 25の中幅部分

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections